

平成21年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	高等課程デザイン系学科の基礎教育「色彩」カリキュラムの開発		
法人名	学校法人第一平田学園		
学校名	中国デザイン専門学校		
代表者	理事長 平田 眞一	担当者 連絡先	戸田 陽子 TEL 086-225-0791
1. 事業の概要			
<p>本事業は、専修学校デザイン科の教育において、より高い学習達成度を可能にすると考えられる「高等課程」と「専門課程」の一貫した教育の枠組みを検討することを目的とし、多様な活用範囲が想定される教科「色彩」をテーマとしたカリキュラム及び教材の開発を行い、実証講座によって検証するものである。</p> <p>「高等課程」と「専門課程」の二つの課程では就学年齢が異なることから、それぞれにふさわしい内容でカリキュラム策定を行う必要があり、デザイン専門教育の場合、専門的知識や技術を習得する土台として、客観的観察力、感受能力、コミュニケーション力が必要とされる。高等課程の場合、入学時の年齢が低く、このような素地が十分に備わっているとは言い難く、まず高等課程においてデザイン制作の専門的知識や技術を習得するための受け入れ素地を形成し、その後に専門知識や技術を学習するという一連の学習システムが色彩によって可能であり、それを実現するための最適な教育的枠組みが、本事業の目指す「専門課程」につながる「高等課程」の教育カリキュラムであろう。</p> <p>現在、デザイン教育における色彩教育は、「色彩」が様々なデザインに与える影響や役割を学習することによって、より良い物や環境を創造するための知識や技術を学習するものである。この「色彩」の教育として、専門課程では実践的な教育目標に向かって教材と繰り返し行う実習によって学習するものであるが、高等課程においては、義務教育を修了したばかりの生徒が対象であるため、実践的な課題に対する理解度が低く、まず初めに色彩に対する基礎知識を理解してもらう必要がある。ところが、これを達成するために適した教科書や教材がないのが現状であり、本事業では専修学校高等課程で求められる色彩教育プログラムを探求するとともに、生徒に興味を持たせながら理解を深めることができる教材開発に取り組むこととした。</p> <p>本事業では、上記目標を達成するために、「色彩」カリキュラム基本計画を策定し、さらにその基本計画に沿って年間の授業計画案と各単元の学習指導案を作成し、またその授業を効果的に進めるための教材を作成した。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①開発したプログラム・教材・教育手法等の概要			
<p>「色彩」の特徴とデザイン教育への活用を図る点から、様々な学問の中に色彩の応用があり、色の使い方を理解することで日常生活の自己表現の手段として利用することができる。この点を理解することによって色彩教育へと誘う手段と方法を検討し、達成目標を設</p>			

定した。

1. 教科「色彩」カリキュラム基本計画の策定
2. 「色彩」の特徴とデザイン教育への活用・応用
3. 「色彩」におけるデザイン専門教育のレベル別達成目標と基礎教育の達成目標策定
4. 授業計画案の作成
5. 各単元の学習指導案及び教材の作成
 - 単元1「色の役割」の学習指導案と教材
 - 単元2「光と色」の学習指導案と教材
 - 単元3「色の知覚効果」の学習指導案と教材
 - 単元4「伝統色」の学習指導案と教材

②ニーズ調査等（手法・期間・効果）

1. アンケート調査

アンケート調査の対象は、全国美術デザイン専門学校教育振興会会員校19校と、高等専修学校の中で「色彩」関連科目のある学校136校に対して郵送にて実施した。調査期間は平成21年7月17日～9月15日までで、回答は19校中10校と136校中46校であった。その結果、専門課程と高等課程における色彩教育と基礎教育・人間形成教育との関連性や必要性についての考え方がある程度判明した。

「デザイン基礎教育として必要だと思われるもの」について選択肢の中から回答してもらったところ、全国美術デザイン専門学校教育振興会会員校では「身の回りの環境を整える習慣をつける教育」以外は、すべての学校がその必要性を感じているという回答が得られたが、専修学校高等課程においては、以下のような結果となった。

- (1) 「発想をはぐくむ力」が最も多くの学校から「必要である」との回答が得られる（約7割）
- (2) 「身の回りの環境を整える習慣」は「美・醜や調和・不調和にこだわる感性」以上に必要であると感じている学校が多い。
- (3) 「物事を整理して伝える力」は半数が必要であると回答する一方、「物事を整理して伝える習慣」は4分の1に留まる。
- (4) 「思いやり」や「協調性・相手を認める力」なども必要であるとの回答が「その他」としてあげられた。

2. 実態調査

デザイン関連分野の高等課程の中から3校を選び、実地調査とヒアリングを行った。高等課程のカリキュラムの中でデザインや色彩関連の科目がどの程度取り入れられているか、また応用科目として取り入れることができるかなどの調査を行った。

③実証講座の状況

学習指導案について、専修学校3校において実証講座として模擬授業を行い、内容の吟味・検証を行った。また、その中で出てきた問題点や課題について検討し、内容の修正を行った後、最終的な実証講座を実施し、検証した。

④その他
3. 事業の評価に関する項目
①目的・重点事項の達成状況
<p>「高等課程デザイン科」の就学年齢などを条件に教育カリキュラムを検討すると、「専門課程デザイン科」につながる教育を前提にしたほうが、習熟目標に対するより高い達成度が可能になるものと考えられる。</p> <p>本研究の目的は、専修学校デザイン科の教育において、より高い学習達成度を可能にすると考えられる「高等課程」と「専門課程」の一貫した教育の枠組みを検討することである。アンケートにより現場サイドからの状況を調査し、高等課程における他の教科との関連や人物育成要求を元に、効果的な学習内容を検討した。その結果、多様な活用範囲が想定される「色彩」をテーマとしたカリキュラム及び教材の開発を行うことによって、高等課程のカリキュラムにおいて生徒に色彩に興味を持たせながら理解を深めることができる導入方法を考案し、教材を開発、実証講座にて検証を行った。</p> <p>以上により、いくつかの問題点が指摘され、改善することによって4単元による教科内容、学習指導案、教材を作成することができた。</p>
②事業の成果
<p>本事業では、専修学校デザイン科の教育において、「高等課程」と「専門課程」の一貫した教育の枠組みを検討することを目的とし、専修学校高等課程デザイン科の基礎教育について、専門課程デザイン科につながる教育を前提に、次のとおり専修学校高等課程で求められる「色彩」をテーマとしたカリキュラム及び教材の開発を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「色彩」カリキュラム基本計画の策定 (2) 「色彩」の特徴とデザイン教育への活用・応用検討 (3) 「色彩」におけるデザイン専門教育のレベル別達成目標と基礎教育の達成目標策定 (4) 授業計画案の作成 (5) 各単元の学習指導案及び教材の作成 <ul style="list-style-type: none"> 単元1 「色の役割」 単元2 「光と色」 単元3 「色の知覚効果」 単元4 「伝統色」 (6) 単元3 「色の知覚効果」の教材「色彩の不思議」をCDにて作成し、テキストの巻末に添付 <p>特に、上記(6)では、「色の知覚効果」についてパソコン内で視覚効果を確認できるCD教材となっている。</p>

③次年度以降における課題・展開

学習指導案作成にあたっては、内容にかなり細かい検討が必要であり、策定には相当な時間を要するものであることが分かった。今回の事業では、1年間のカリキュラムとして8単元の授業計画案を作成し、そのうち4単元について学習指導案を作成したが、残り4単元についても今後引き続き取り組み、完成させていきたい。

④成果の普及

本事業の成果は、全国専門学校情報教育協会が主催する「専修学校フォーラム2010」において、成果報告を実施した。参加された専門学校関係者には興味深く聞いていただき、質疑応答の後、いくつかの学校から学習指導案・教材等の送付要望をいただき、配付した。また、全国美術デザイン専門学校教育振興会会員校及び今回実施のアンケート調査に回答いただいた学校に成果物を配付しその普及に努めたが、カリキュラムを幅広く運用していくために、今後も教員研修や意見交換の場を設定するなど普及活動を継続していきたい。